

航空

2023年4月21日



平野ロジスティクス 「成羽シャトルシステム」本格化



背高貨物にも対応する+1αトレーラーと緊急輸出貨物に対応する成田臨空保税蔵置場

平野ロジスティクスが成田—羽田間を結ぶ保税転送（OLT）を強化している。コロナ禍の影響で羽田空港の国際線が減少していたが、コロナ禍の影響が薄まる中で、2023年夏季スケジュール（3月26日～10月28日）に入って羽田空港を発着する国際旅客便が増加。それに伴って成田—羽田のOLT需要が高まっている。コロナ禍の中でもトレーラーを増強するとともにドライバーを積極的に採用するなど、輸送力の増強に取り組んできた。成田と羽田を結ぶOLT「成羽シャトルシステム」としてサービスを提供、物流効率化に貢献する。

■ 緊急対応で保税蔵置場も

平野ロジスティクスの車両体制は、トラックは大型車を中心に約100台。さらにトレーラーが加わる。現在のオリジナル・トレーラーの体制は、▷大型トラックよりも96インチ仕様のULDを2台多く搭載できる「+2」▷同1台多く搭載できる「+1」▷「+1」に改良を加えて背高貨物などへの対応に柔軟性を持たせた「+1α」▷「+1」に空調機能を施した「+1COOL」▷大型トラックよりもLD3換算で7台多くコンテナを搭載できるとともに複数のパレタイズ貨物を搭載できる「+7」▷「+7」に改良を加えてコンテナを8台多く搭載できる「+8」▷「+

7]に空調機能を持たせた「+7COOL」など。「+1」に空調機能を施した「+1COOL」も投入し、高品質が求められる医薬品輸送に特に力を発揮。航空機エンジンなどの大型貨物を搭載できる平ボディ・トレーラーも配備している。

現在、トレーラーは「+1」を中心に約70台体制。航空業界にコロナ禍の影響が顕著に表れ始めた20年夏季スケジュール以降、約30台を増強して現在の体制を確立するなど、ドライバーの採用とともに積極的に投資に取り組んできた。

成田空港の南部貨物地区にトレーラー（荷台部分）の専用置場を確保。専用スペースに置かれているトレーラーに順次、貨物を搭載。貨物搭載が完了したトレーラーをトラクター（ヘッド部分）が適宜、けん引して輸送する。空港現場には積み降ろしに携わる専任のオペレーターを配置。上屋の状況を把握しながら、貨物の積み降ろし、貨物の保管・管理状況などを常時、確認する。

トレーラーの運行と貨物搭降載を並行して実施できることで待ち時間解消、運行効率を高めることができる。成田のトラック・トレーラーの待機場を有効活用することで成田、羽田間の物流を効率化。環境負荷低減、労働環境のさらなる向上などに役立てる体制をとっている。かつトレーラーの活用による物流効率化は、ドライバーの年間残業時間規制が厳格化する「2024年問題」の解決策となる。

成田空港外の施設では今年1月に保税蔵置場許可を取得した。緊急時の対応を目的とした施設として運用する。例えば小ロットで緊急出荷が求められるような需要が発生した際に、通常の物流フローでは対応が難しい、あるいはコストがかかる場合に集荷から通関、航空会社への搬入までを窓口一つで対応できる体制を整えた。荷主、物流事業者の緊急対応の受け皿として機能することで、広く航空物流の効率性向上に貢献する。

■ 効率性追求、物流に貢献

「2024年問題」まで1年を切る中で、国際航空貨物輸送分野でも効率性を追求することの重要性が高まっている。トレーラーの増強による空港間OLT対応の強化、保税蔵置場の確保も物流の効率性を高めることを主眼としている。

益子研一取締役営業本部長は「コロナ禍の期間中から、コロナは必ず終息するという認識のもとでアフターコロナを見据えた取り組みを進めてきた」と説明。「例えば普段の生活、余暇の過ごし方をとっても、飲食など屋内での活動が制約を受けて交流の機会を持つことが難しくなったが、そうした期間であっても、例えば屋外で体を動かすことなど、『何ができるのか』を試行錯誤しながら、少しでもプラスに作用する機会とする、あるいは力を蓄える期間として

活用するべく頭を切り替えることを意識した。結果的に自身の屋外での活動、例えばゴルフのレベルもアップしたと感じている」と自らの経験を引き合いに出しながら、成田―羽田間のOLTに言及。「ビジネス、事業の面でも、需要が減少した期間中も羽田国際線が復便するタイミングを見据えて積極的に投資に動いてきた。その成果をこれから存分に発揮し、物流の効率性を追求することで需要にしっかりと応え、航空貨物業界のさらなる発展に貢献していきたい」と強調する。

Daily Cargoに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.